

# 言葉のもつ力

岐阜市立陽南中学校 2年  
江口 ひまり(えぐち ひまり)

言葉は、人と人を結ぶ働きをもっている。言葉を交わすことで、人は人を感動させたり、傷付けたりする。また、言葉自体が宝物になったり、凶器になったりすることもある。人がもっている最強の道具だといえる。

ネットニュースである記事を見た。記事のタイトルは、「誹謗中傷で自殺。インターネット普及にともなって」だった。この誹謗中傷は言葉を凶器にして人を追い詰める許されない行為だ。「自殺なんかじゃない。きっと言葉のナイフに殺されたのだ」と私は感じた。私は、今までに一回だけ「死ね」と言われたことがある。小学生の時に同じ班の子と言い争いになった時のことだ。言われた時は感情が高ぶっていたため、気にならなかった。しかし、時間が経つにつれて、何とも言えない悲しさがこみ上げてきた。その一言からもう何年も経つが、今でも、心に強く残って消えない。見えないナイフで刺された痕が私にもあるのだ。しかし、誹謗中傷をした人は、その人がどんなに苦しいのか辛いのかを知らない。だから、想像してみて欲しい。毎日「死ね」「バカ」「ゴミ」などの心無いナイフを投げられ続けたら。それも、不特定多数の人間に。極限まで思い詰めてしまってもおかしくない。そんな風に、あなたが何気なく放ったナイフが、誰かの心に深く突き刺さることがあるということを絶対に忘れないでほしい。

誹謗中傷という武器は、言葉によってつくられ、今は誰でも簡単に全世界に発信できる時代だ。そして、誹謗中傷が消えない原因の一つに匿名があると思う。匿名だと、自分が誰かを傷付けているということに気が付きにくいからだ。だから日常生活では言えないような心無い言葉を言ってしまうのだ。それに、匿名だと個人が特定されない。バレにくいなら、きっと色々なことを言いやすくなる。だから私は、プライバシーの関係で難しいのかもしれないが匿名を廃止すべきだと思う。現実には難しいことは分かっているが、プライバシーを守るよりもその人の心や命を守るの方が何よりも大切なのではないだろうか。匿名でなくなったら、きっと誹謗中傷は減る。誹謗中傷は、立派な犯罪だ。インターネットという見えない檻の中で、人に言葉のナイフを投げつける犯罪なのだ。

私はそんな人たちに、言葉の正しい使い方を学んでほしい。言葉は見えない道具だ。使い方は無限だし、何のために使うのかを考えて使わなければいけない。

私は人と考えを共有し、認め合い、繋がるために言葉あると思う。例えば、大切な人に想いを伝えたい。この物の魅力を知ってほしい時に人は言葉を使う。言葉を使うからこそ、互いの考えやよさを認め合い、繋がることができる。そのために言葉は存在しているのだ。そして、他人の考えを互いに認め合うことで、言葉は宝物になり、心という宝箱に入っていくことができる。もちろん納得できない考えもあるだろう。しかし、それをけなすだけなら、言葉はナイフになる。分かち合えなくてもいいのだ。認め合うことこそが大切なのである。私自身、テストで思うように点数が取れず、本当に悩んでいた時、友達に「この部分はできてね。前よりもできるようになったね。」と声をかけられたことがある。そんな共感的な言葉のおかげで、「よし、次も頑張ろう。」と自信や勇気がわいてきたことがあった。

誰でも気軽に考えを発信できる社会。だからこそ、一人一人が言葉のもつ力や意味を理解し、使う必要がある。言葉をナイフとして使うのではなく、人と考え方や感じ方を認め合うことが正しい使い方だ。それこそが、人がもっている最強の道具「言葉」のもつ力だ。